

## 小委員会の調査報告書

教科名	英語科	委員長名 吉田勝徳
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(木)に、稚内市役所正庁で開催し、英語小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月3日(金)から7月14日(火)まで、「教科書見本本」、「教科書編修趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月15日(水)に、稚内総合文化センター小ホールで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東書、開隆堂、学図、三省堂、教出、光村の6者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p>	
調査研究に当たった際の配慮事項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱い内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各分野や各領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p>	
少数意見その他		

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	2. 東書	NEW HORIZON 1.2.3	英語727,827,927
取扱内容	<p>○全体としては、「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのコミュニケーション能力の基礎」を養えるよう、内容が配列されている。</p> <p>○題材については、国際化、キャリア教育、環境、福祉、防災・安全、技術・情報化、人権、平和、映画作品、国際理解、異文化理解、伝統・文化など、今日的な学習課題や生徒の興味・関心に即したモノも盛り込まれ、他教科との関連からも学べるよう配慮されている。</p> <p>○言語活動は、指導要領の各学年目標に即したテーマと活動が設定されている。1学年は「身近な場面で考えを伝え合うこと」をテーマに、自己紹介や相手に尋ねてみる活動。2学年は「様々な場面で情報や考えを伝え合うこと」をテーマとし、自分の夢や自分の住んでいる街について発表する活動。3学年は「場面に応じて適切に情報や考えを伝え合うこと」として、日本の文化や自分の修学旅行、そして自分の中学校生活について発表する活動が設定されている。</p> <p>○言語材料については、1学年がUnitの各Partで「文法・語彙・題材・コミュニケーション活動」が、総合的に扱われている。2・3学年では、各UnitのPart1がStarting Out、Part2がDialogとし、文法と「聞く・話す」中心のコミュニケーション活動、Part3と4がRead and Think①②で、「読む・書く」中心の活動に、それぞれ重点が置かれ、最後にActivityでUnitのまとめができるよう構成されている。</p> <p>○補充的な内容については、数Unit後にPresentationが設定され、Unitで学習した基本文が繰り返し扱い、定着が図られている。巻末には読み物教材Let's Readで長文読解にも対応した内容となっている。</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○内容の構成については、Unit、Daily Scene、Presentationの3部構成となっている。各Unitでは英語の基本的な文を学び、Daily Sceneで日常的なコミュニケーションの方法を学び、Presentationで表現活動を行う形となっており、英語を「基礎から使える技能」へと高められるよう構成されている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では、小学校と関連を持たせた導入のHi, English、be動詞、一般動詞、疑問詞、3単現のs、現在進行形、助動詞、規則変化の過去形動詞の構成。第2学年では、be動詞過去形、不規則変化の過去形動詞、過去進行形、未来表現、不定詞（3用法）、助動詞、接続詞、動名詞、比較表現の順である。第3学年は、受け身、現在完了形、不定詞表現、疑問詞＋不定詞、後置修飾の表現（現在分詞・過去分詞）、間接疑問文、接触節、関係代名詞（主格・目的格）となっている。指導要録の内容がしっかり網羅されている。</p> <p>○内容の分量については、Unit中のStarting Outで短めの基本文、Dialogで十分な会話分量、Read and Thinkで少し多めの英文となり、学習者と共に分量が増えている。単語も重要語句は太字になり、応用的な課題にはTool Box、Bonus Word Box、Word Roomなどがあり、補充語彙・表現が扱われている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○全学年に英語の歌が取り入れられ、日常会話のDaily Sceneでは、あらすじを設定して会話練習ができるなど、生徒が興味を持って活動しながら英語を身につける工夫がされている。</p> <p>○紙面スペースを利用した「一言メモ」「コラム」があり、本文の内容理解やコミュニケーション活動に役立つ工夫もされている。</p> <p>○文法事項をまとめて確かめる場（「まとめと練習」）が設けられ、「学び方コーナー」では、英語の家庭学習の進め方や豆知識、英語を「話す・書く」ためのコツまで示され、生徒が自学自習していくための配慮がなされている。</p> <p>○複数のUnit後の「単語リスト」や「基本表現一覧」（全学年）、「英語の音と綴り」（第1学年）、「基本動詞の活用」（第2学年）、「いろいろな前置詞」（第3学年）のページを掲載されているなど、授業や家庭学習で活用する際の便宜が図られている。</p>		

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	9. 開隆堂	SUNSHINE ENGLISH COURSE 1.2.3	英語 728.828.928
取扱内容	<p>○全体としては、英語でコミュニケーションしながら4技能をバランスよく総合的に育成することができるように、会話文を中心に、実践的なコミュニケーション能力を育成していく内容となっている。</p> <p>○題材については、イギリスやアメリカなど外国の様子のほか、日本伝統文化の紹介、国際理解、環境問題、貧困問題などが取り上げられ、言語や文化に対する理解を深めることができるようになっている。</p> <p>○言語活動については、すべての課において新出文法事項が使われた対話活動を通して、自分の考えを表現する場面が設けられており、話し手の意向を理解したり、自分の考えを話すなど初歩的なコミュニケーション能力の育成を図ることができるようになっている。また各課に読むこと、聞くことの活動があり、初歩的な英語を読み、書き手の意向を理解する力をつけることができるようになっている。</p> <p>○言語材料については、語、連語及び慣用表現では、基本的な語を太字で示すとともに、コミュニケーションを豊かにする語をまとめて提示している。文法事項では、基本文を各課冒頭に示し、解説をつけるとともに、聞く、話す、読む、書く活動がバランスよく配分され、くり返し学習する配慮がなされ、定着を図りながら活発で多様な言語活動を行うことができるようになっている。</p> <p>○補充的な内容については「Power Up」で聞く、話す、読む、書く実践的な活動が取り入れられ、4技能をバランスよく伸ばす学習ができるようになっている。また「My Project」でスピーチを中心とした発展的な表現力を身に付ける学習ができるようになっている。</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○内容の構成については各課に基礎的な力をつける活動を設け、まとめとして「Power Up」で重点的に聞く、話す、書く活動を設け、また発展的な表現活動を行う「My Project」を設けるなどバランスよく活動を配置しており、生徒が興味・関心を持って取り組むことができるようになっている。</p> <p>○内容の排列については、全体的に小学校外国語活動で学習した内容を踏まえたものとなっており、第1学年ではBe動詞、一般動詞、現在進行形、過去形、第2学年では過去進行形、未来表現、助動詞、to不定詞、接続詞、比較表現、受け身、第3学年では現在完了、後置修飾、関係代名詞となっており系統的、発展的に指導できるものとなっている。</p> <p>○内容の分量については、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの各領域、さらに各領域の関連を図った活動のそれぞれが適切に配分されているとともに、実際に英語を使用したりする活動と言語材料について理解したり練習したりする活動がバランス良くできるようになっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○英語の歌を取り上げたり（全学年）、「Program」では、地理歴史や伝統文化に関する内容をとりあげたり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。また巻末に「英語で『できるようになったこと』リスト」が設けられ、学習内容を振り返ることができるだけでなく、CAN-DOリストに対応した評価ができるように工夫されている。</p> <p>○「英語のしくみ」では複数の「Program」で扱った文法事項をわかりやすくまとめて示したり（全学年）、辞書を用いた問題を取り上げたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻末に学習した「単語と熟語」（全学年）や「英語のつづり字と発音」（全学年）、「不規則動詞活用表」（第2、3学年）、ペアで簡単な質問の受け答えを練習する「クイックQ&amp;A」（第2、3学年）などを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	11 学図	TOTAL ENGLISH 1.2.3	英語729 829 929
取 扱 内 容	<p>○全体としては、生徒の意欲を喚起する題材を厳選し、実践的なコミュニケーション能力の育成が図られるようになっている。</p> <p>○題材については、日本の伝統的な物を紹介したり、日本の学校と外国の学校との違いを学んだりする題材や、マザー・テレサの伝記や、アンネの日記などで正義と責任、平等などについて学ぶことができ、日本のマンガやアニメ、スポーツ、映画などの伝統文化を取り上げることにより、言語や文化に対する理解を深めることができるようになっている。</p> <p>○言語活動については、初歩的な英語を用いて、自己紹介や友達や日本の行事の紹介や旅行についてのスピーチ、道案内や電話等での会話などの活動により、話し手の意向を理解したり自分の考えを話すことができるようになっている。Chapter末にそのChapterで学習し、習得した目標文や重要表現を、実際に活用して書いたり話したりする表現活動、Chapter Projectを設けている。</p> <p>○言語材料については、語、連語及び慣用表現では、使用頻度の高い語を学習初期の段階で示すとともに、コミュニケーションを豊かにする語や表現を場面に応じて提示している。文法事項では、基本文を各課ごとに示し、解説をつけるとともに、ListeningやSpeaking、Writingといった活動を通して定着を図りながら多様で活発な言語活動を行うことができるようになっている。</p>		
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成については、各パートに聞く活動、読む活動、話す活動を設け、各課に「Review」と各Unitに「Project」を設け、バランスよく活動を配置しており生徒が、復習しながら興味・関心を持って取り組むことができるようになっている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年では、一般動詞、疑問詞、命令文、be動詞、3単現のs、助動詞can、過去形、第2学年では過去進行形、will、be going to、助動詞、不定詞、動名詞、形容詞・副詞の比較変化、複文(if, because)、第3学年では受け身、疑問詞+to不定詞、現在完了形、現在分詞・過去分詞の形容詞としての用法、関係代名詞、間接疑問文となっており系統的、発展的に指導できるものとなっている。</p> <p>○内容の分量については、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの各領域、さらに各領域間の関連を図った活動のそれぞれが適切に配分されているとともに、実際に英語を使用したりする活動と言語材料について理解したり練習したりする活動がバランス良くできるようになっている。</p>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○英語の歌を取り入れたり（全学年）、「Action!」では言語活動を通して習得する内容を取り上げたり（全学年）し、学習意欲を高める工夫がされている。また、各「Chapter」に「Lesson」や各コーナーのトピック、言語材料、目標を明示して、CAN-DOリストに対応した評価ができるよう工夫している。</p> <p>○「Lesson」の文法事項をまとめとして示し、体系的に復習することができる「Check It Out」を設けたり（全学年）、学年全体の基本文をまとめとして示し、言語材料の振り返りを促すことができる「目標文のまとめ」を設ける（全学年）など、生徒が主体的に取り組める工夫がなされている。</p> <p>○巻末には「単語リスト」や「目標文のまとめ」（全学年）「ローマ字」（1学年）、「不規則動詞の変化表」（第2・3学年）のページを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
そ の 他			

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	15. 三省堂	NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1.2.3	英語 730.830.930
取扱内容	<p>○全体としては、段階を追った活動を通してバランス良く4技能の学習をすることで、総合的な英語でのコミュニケーション能力を育成していく内容となっている。</p> <p>○題材については、英語を母語とする国だけでなく、英語を第2言語・外国語として使用する地域の様子のほかに、日本伝統文化の紹介、国際理解、環境問題、貧困問題、平和問題などがバランス良く取り上げられ、言語や文化に対する理解を深めることができるようになっている。</p> <p>○言語活動については自己紹介や将来の夢、日本文化紹介などの様々な表現活動を通して、話し手の意向を理解したり、自分の考えを話すことができるようになっている。また「USE Read」や「Let's Read」などの生徒の興味関心を惹く読み物教材を通して、初歩的な英語を読み、書き手の意向を理解する力をつけることができるようになっている。</p> <p>○言語材料については、語、連語及び慣用表現では、基本的な語を太字で示すとともに、「Word Bank」においてジャンルごとに基礎的な語句がまとめられており、語彙を増やし表現の幅を広げられる工夫がなされている。文法事項では基本文を各課に示すとともに、「文法のまとめ」でいくつかのLessonの文法事項をわかりやすく整理することで繰り返し学習する配慮がなされ、定着を図りながら活発で多様な言語活動が行うことができるようになっている。</p> <p>○補充的な内容については、「Project」で発展的な表現力を身に付ける学習ができるようになっている。また「USE Speak」「Use Write」であいづちの打ち方や、人物紹介の仕方、メールの書き方など実践的な表現力を身に付ける学習ができるようになっている。</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○内容の構成については、各課に聞く、話す、読む、書く活動を設け、「Project」で発展的な表現活動を行うことができるなど、バランスよく活動を配置しており、生徒が興味・関心を持って取り組むことができるようになっている。</p> <p>○内容の排列については、全体的に小学校外国語活動で学習した内容を踏まえたものになっており、第1学年ではBe動詞、一般動詞、現在進行形、過去形、第2学年では過去進行形、未来表現、助動詞、接続詞、to不定詞、比較表現、受け身、第3学年では現在完了、後置修飾、関係代名詞となっており系統的、発展的に指導できるものとなっている。</p> <p>○内容の分量については、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの各領域、さらに各領域の関連を図った活動のそれぞれが適切に配分されているとともに、実際に英語を使用したりする活動を言語材料について理解したり練習したりする活動がバランス良くできるようになっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○英語の歌を取り上げたり（全学年）、「Lesson」では日本伝統文化に関する内容を取り上げたり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。また巻末に「What Can I Do?」が設けられ、英語でできるようになって欲しいことが明示されており、CAN-DOリストに対応した評価ができるように工夫されている。</p> <p>○「文法のまとめ」において複数の「Lesson」の文法事項をわかりやすく整理して示し「For Self-study」で辞書の引き方や単語の覚え方といった学習の仕方を解説するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻末に学習した「単語の意味」（全学年）や「いろいろな単語」（全学年）、「絵でわかる英語のしくみ」（全学年）、「つづりと発音」（第1、2学年）、「不規則動詞活用表」（第2、3学年）などを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	17.教出	ONE WORLD English Course 1.2.3 ONE WORLD English Course1.2.3 Essentials	英語 731.732.831 832.931.932
取扱内容	<p>○全体としては、基礎的な知識・技能の習得と、それらを活用して表現するためのTaskやProjectなどの活動を通してコミュニケーション能力の基礎を育成していく内容となっている。</p> <p>○題材については、中学生の興味・関心の高い話題・内容を多岐にわたって取り上げ、異文化や日本の伝統文化を尊重し、生命・環境・福祉・平和・人権などについて考えさせる題材、または英語で生徒が発信できる内容が取り上げられている。</p> <p>○言語活動については、理想の街の紹介やマッピング図を利用するなど4領域にわたり、生徒の意欲的な自己表現を引き出す内容になっており、各種Tips活動で習熟を図り、Projectにおいて4技能の統合的な活動により生徒自身が発信、発表できる内容となっている。</p> <p>○言語材料については、lessonごとにHop, において「聞く」「話す」「書く」の練習、Stepにおいて「読む」練習、Jumpにおいて基本文をはじめ単語や表現のさらなる定着を図る提示となっている。</p> <p>○補充的な内容については、「Project」で発展的な表現力を身に付ける学習ができるようになっている。またReading Lessonにおいて長文読解ができる内容となっている。</p>		
内容の構成・排列・分量	<p>○内容の構成については、lessonに聞く、話す、読む、書くなどの習得から、「Project」で活用となっており、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年では小学校の外国語活動で学習した挨拶をしたり、身近なものを英語で言ったりするなどの内容をふまえ、2学年では自分の気持ちを交えながら話したり、自分がしたいことを説明したりする。第3学年では1, 2学年で学習したことをふまえこれまで経験したことを説明したり、人や物について詳しく説明する内容となっており順序性に配慮されている。</p> <p>○内容の分量については、総じて前回よりもページ数が増えており、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの各領域が適切に配分されており、さらに実際に英語を使用したりする活動と言語材料について理解したり練習したりする活動がバランス良くできるようになっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○英語の歌を取り上げたり（全学年）、Time for a Skitでは徳地の場面でよく使われる表現をスキットとして取り上げている。また目標を明確にしてCAN-DO-LISTに対応した評価ができるよう工夫されている。</p> <p>○Lessonの文法構造や文法について、例文や日本語訳を付けて説明する「英語のしくみ」を設けるなどして、主体的に学習に取り組むことができる工夫がなされている。</p> <p>○巻末に学習した「単語のリスト」（全学年）や「Classroom English」「不規則動詞変化表」などのページを掲載し使用上の便宜が図られている。</p>		

様式 2

教科名	英語科		
	出版社名	教科書名	番 号
	38 光村	COLUMBUS21 ENGLISH COURSE 1,2,3 Course	英語733 833 933
取扱内容	<p>○全体としては、自然な英語に触れられるよう、身近な場面から世界に広がるトピックまで、楽しみながら学習を継続できるように排列されている。</p> <p>○題材については、対話文だけでなく、メール・手紙・インターネット（ブログ等）・スピーチ・新聞記事など実際によくある場面を設定しているほか、物語・ノンフィクション・自然科学を題材にした説明文など、多様な文種を取り上げている。</p> <p>○幅広い教育への配慮として、道徳教育との関連、国際理解教育への配慮、人権教育や福祉教育への配慮、環境教育への配慮、将来を考えるためのキャリア教育への配慮、情報教育への配慮、社会情勢の変化への対応がさまざまな題材を通してなされている。</p> <p>○言語活動については、初歩的な英語を用いて道案内をしたり、レポーターの実況や日本の学校の様子をアメリカの友達に伝えるなどの活動により、話し手の意向を理解したり自分の考えを伝えることができるようになってきている。</p> <p>○言語材料については、語、連語及び慣用表現では、基本的な語を太字で示すとともに、コミュニケーションを豊かにする語をまとめて提示している。文法事項では、基本文を各課ごとに示すとともに、Try It! を設けて、聴いたり話したりする活動を通して、定着を図りながら活発で多様な言語活動を行うことができるようになってきている。</p> <p>○補充的な内容については「Language Focus」を設け、学習内容を体系的に整理して、繰り返し学習することができるようになってきている。</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○内容の構成については、各パートに聞く活動、読む活動、話す活動を設け、適宜Language FocusやSkit Time、Sound Focusを設け、4技能バランスよく活動を配置しており生徒が興味・関心を持って取り組むことができるようになってきている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年では、be動詞、一般動詞、命令文、疑問詞、3単現のs、助動詞can、現在進行形、一般動詞の過去形、第2学年では、過去進行形、when節、be going to、助動詞will、There構文、不定詞、動名詞、助動詞must、形容詞・副詞の比較変化、受け身、if節、第3学年では、現在完了、後置修飾（現在分詞・過去分詞）、接触節、関係代名詞、間接疑問文、疑問詞+to不定詞となっており、系統的、発展的に指導できるものとなっている。</p> <p>○内容の分量については、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの各領域、さらに各領域間の関連を図った活動のそれぞれが適切に配分されているとともに、実際に英語を使用したりする活動と言語材料について理解したり練習したりする活動がバランス良くできるようになっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○英語の歌を全学年に取り入れたり、「CLIL」では、他教科の内容の一部を英語で学習する内容を取上げたり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。「Unit」および「Go for It!」では、言語活動を通して達成するための到達目標を明示して、CAN-DOリストに対応した評価ができるよう工夫している。</p> <p>○「Unit」の文法事項を横断的にまとめとして示し、言語活動を通して確認できる「Language Focus」を設けたり、辞書の使い方や長い英文の読み方など、英語の学習方法を紹介する「Your Coach」を設けるなど、生徒が主体的に取り組める工夫がなされている。</p> <p>○巻末には「Word List」や「英語のしくみ」（全学年）、「音声のまとめ」（第1・2学年）「不規則動詞活用表」（第2・3学年）のページを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
その他			

